琵琶湖周辺の地震跡

寒川　旭・佃　栄吉（環境地質部）
Akira SANGAWA・Eikichi TSUKUDA

葛原秀雄（今津町教育委員会）
Hideo KUZUHARA

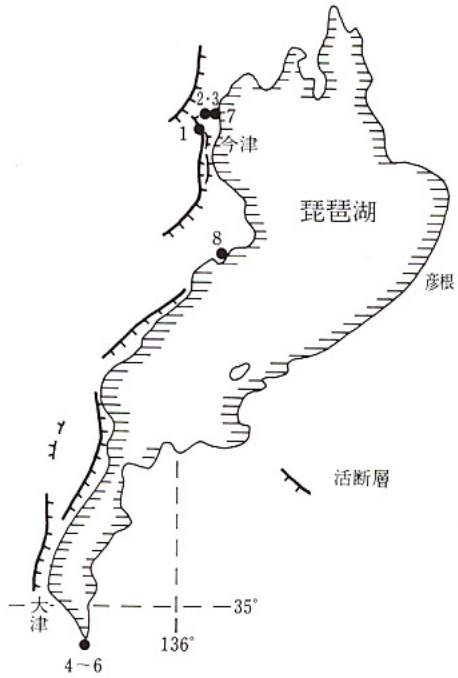
濱　修（滋賀県文化財保護協会）
Osamu HAMA

琵琶湖周辺には多くの活断層が発達している．これらの一部は歴史時代に活動して大きな地震を起こし　湖の周辺に著しい地変をもたらせている（本文参照）．

寛文２年（1662年）の大地震において琵琶湖西岸活断層系（新称）が活動し　湖の西岸に平行する地震断層が生じている．　当時の絵図より　この地震による湖岸の集落・街道・農地・墓地などの水没量が　地震断層の垂直変位量の範囲内におさまることが検証できた．

湖の北西岸の北仰西海道遺跡内に南北方向の噴砂が認められた．　これは縄文時代晩期中頃の地震によって生じたもので　同時代晩期前半代の土坑墓を引き裂き　同時代晩期後半代の土器棺墓に覆われている．

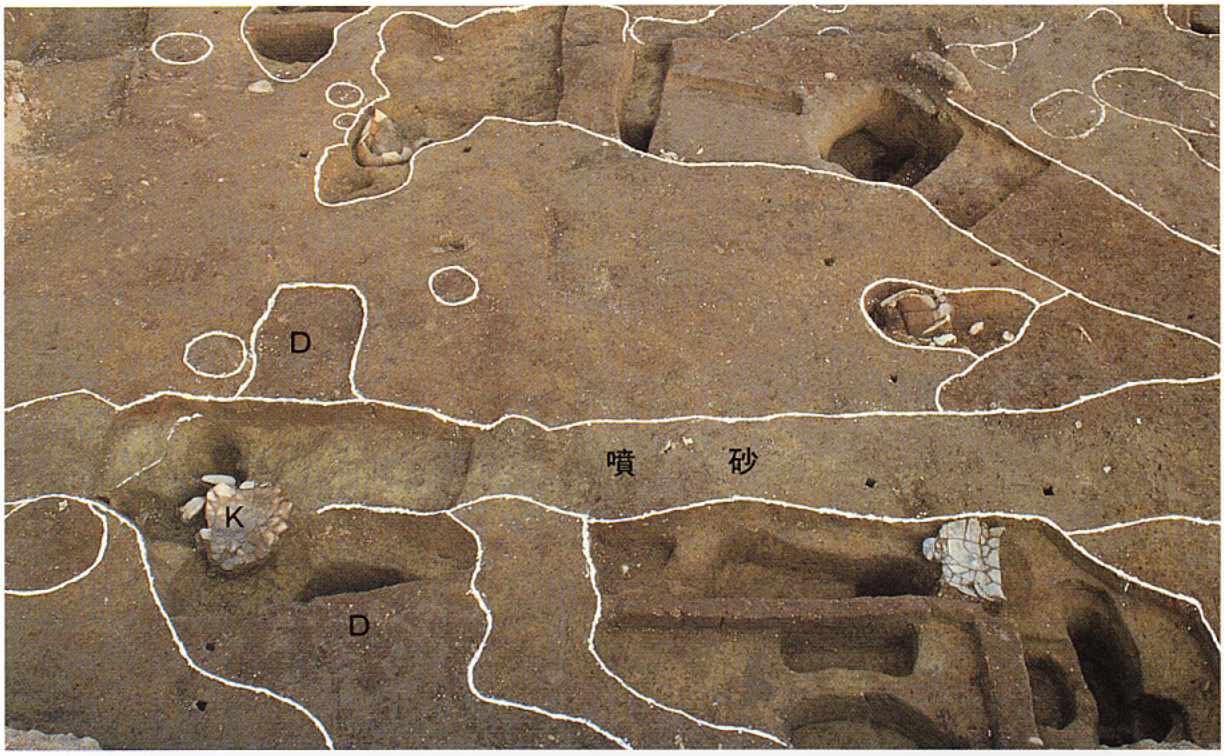
湖南端の瀬田川河床にある螢谷遺跡でも　寛文２年の地震によって生じた可能性のある噴砂が検出された．



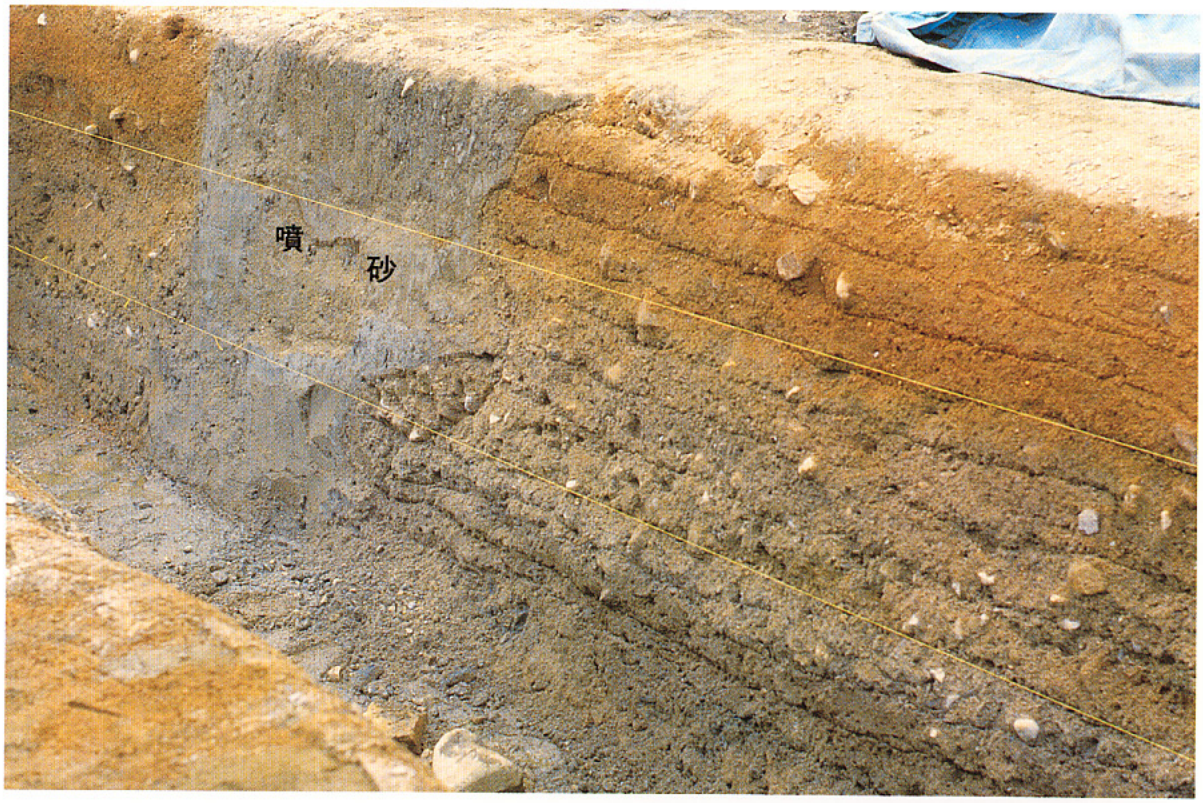
第１図　琵琶湖周辺の地震跡（図中の数字は写真の地点を示す）

↑**写真１**　寛文２年（1662年）の大地震で生じた可能性の強い断層崖

↑**写真 2**　縄文時代晩期前半代中頃の地震によって生じた噴砂の断面形（北仰西海道遺跡）



↑**写真 3**　写真 2 の噴砂の平面形〔縄文時代晩期前半代の土坑墓（D）は噴砂に引き裂かれているが　同後半代の土器棺墓（K）は噴砂の上に設置されている〕



↑**写真4**　平安時代末期以後の地震で生じた噴砂の断面形（螢谷遺跡）

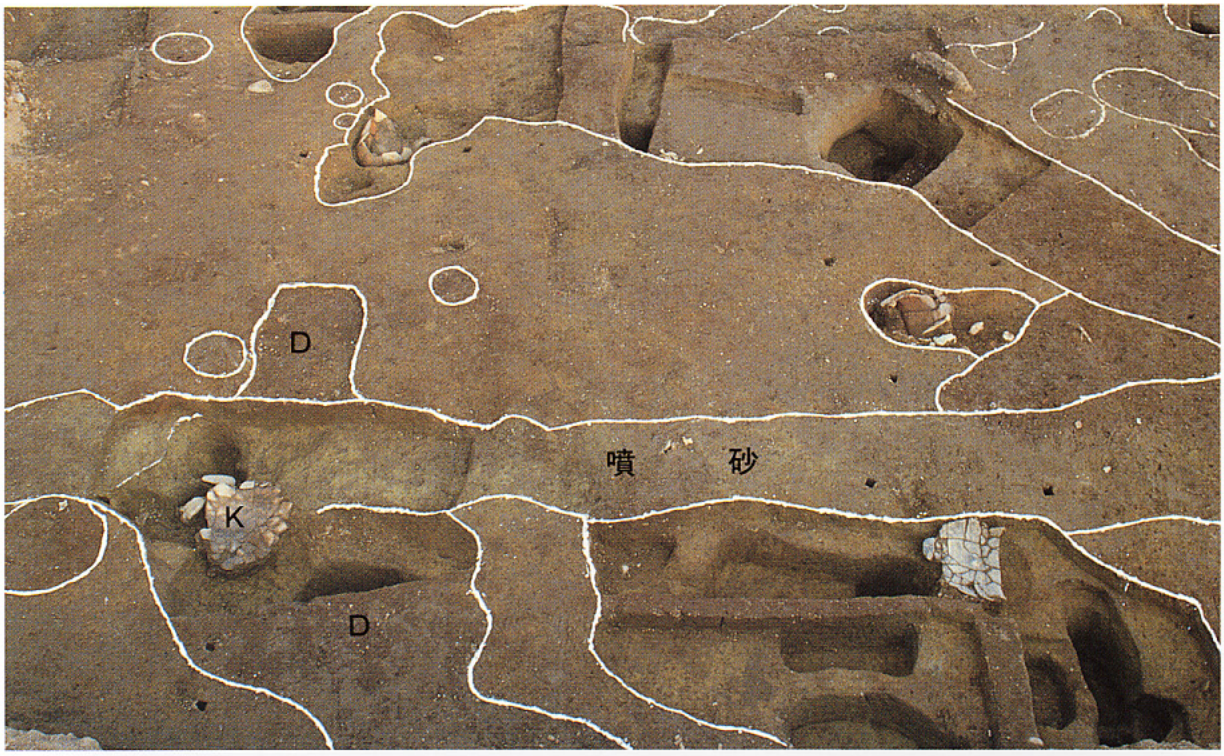
↑**写真5**　瀬田川川底の螢谷遺跡の発掘現場（発掘は縦50m横20mの範囲を鋼矢板で締切って行われた）.

↑**写真6**　写真4の噴砂の平面形（平安時代末期の生活面上に見られるもので長径2.6mの楕円形を示している）.

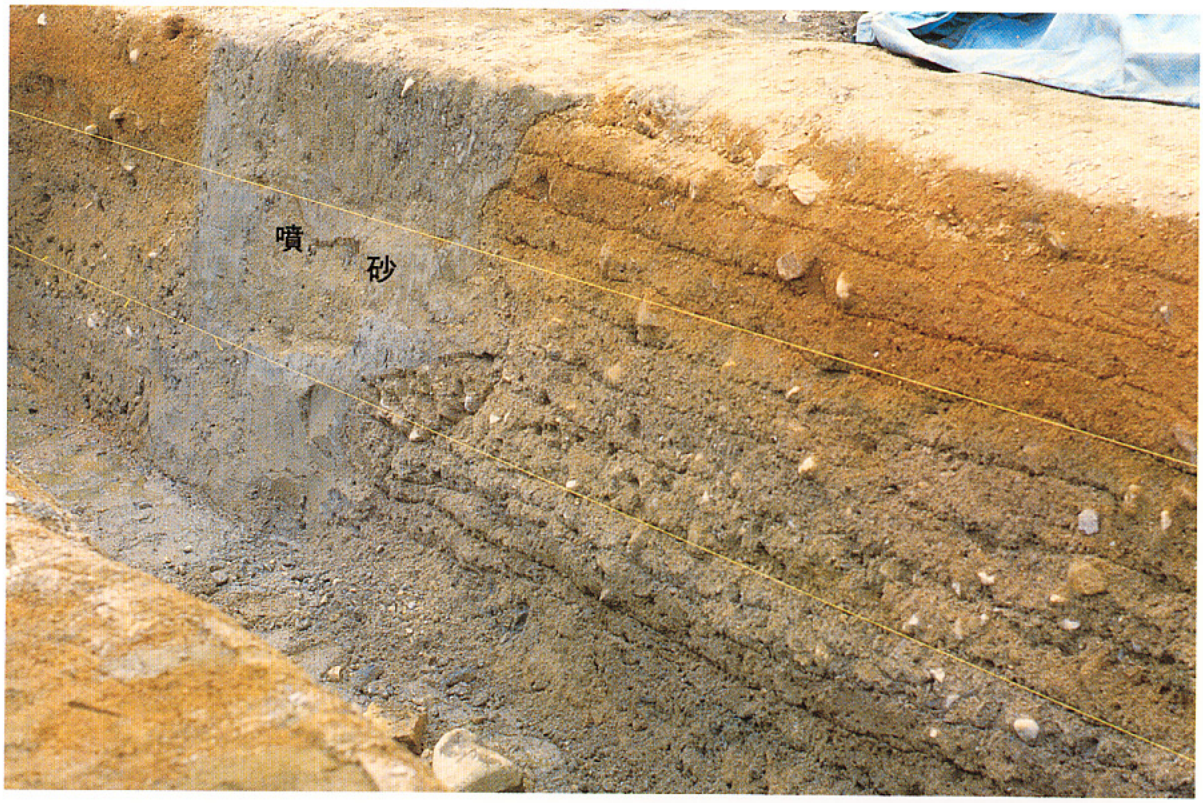
↑**写真7**　宝永4年（1707年）の今津町北仰の絵図（図の上半分は褐色　下半分は白に色分けされている．白の部分が寛文2年の地震で水没した農地と思える：今津町北仰区所蔵）．

↑**写真8**　元禄3年（1690年）の安曇川町松ノ木湖付近の絵図（寛文2年の地震で生じたと思える著しい入江が描かれている：安曇川町若宮神社所蔵）．

↑**写真 2**　縄文時代晩期前半代中頃の地震によって生じた噴砂の断面形（北仰西海道遺跡）



↑**写真 3**　写真 2 の噴砂の平面形〔縄文時代晩期前半代の土坑墓（D）は噴砂に引き裂かれているが　同後半代の土器棺墓（K）は噴砂の上に設置されている〕



↑**写真4**　平安時代末期以後の地震で生じた噴砂の断面形（螢谷遺跡）

↑**写真5**　瀬田川川底の螢谷遺跡の発掘現場（発掘は縦50m横20mの範囲を鋼矢板で締切って行われた）.

↑**写真6**　写真4の噴砂の平面形（平安時代末期の生活面上に見られるもので長径2.6mの楕円形を示している）.

↑**写真7**　宝永4年（1707年）の今津町北仰の絵図（図の上半分は褐色　下半分は白に色分けされている．白の部分が寛文2年の地震で水没した農地と思える：今津町北仰区所蔵）．

↑**写真8**　元禄3年（1690年）の安曇川町松ノ木湖付近の絵図（寛文2年の地震で生じたと思える著しい入江が描かれている：安曇川町若宮神社所蔵）．